2003年より神岡地下施設において地殻活動や地球内部構造の解明などを目的とした地球物理観測を行っている。静穏な地下環境において100mレーザー伸縮計では地球潮汐や地震に伴う地殻変動などが高精度に観測できることが示された。超伝導重力計では重力の経年変化が高い精度で観測された。地下水圧や積雪の影響が認められたが、観測結果をモデル化し補正することができた。今後はKAGRAの1500m伸縮計との並行観測および定期的な重力測定を行い、観測を継続する。